

36 宣誓文

これから第3グループの発表を始めます。

私たちは、この「人になれ 奉仕せよ」という校訓にはどのような意味があるのか、今後どのような看護師になりたいのかについて話し合いました。

まず、「人になれ」とはどのような意味が込められているのかについてです。

「人になれ」とは、自己を愛することや他者を愛することではないかと考えました。

自己を愛するということは、自分がどんな人間なのかを知り、強みを自覚し成長を続けることだと考えました。また、弱みについて知るということも重要ではないかと考えました。例えば、生活援助実習Ⅱに行ったときのお話です。実習で受持った患者さんとうまくコミュニケーションをとることができず、患者さんのライフヒストリーや病気・入院生活に対する思いを聴くことができませんでした。その結果、教科書通りの援助計画を立案し、「それは、本当に患者さんのためになるのだろうか」と指導者さんに指摘され、自己の未熟さを痛感しました。そこで、できない自分の殻に閉じこもるのではなく、未熟な自分を認め、患者さんのためにできることはなにかを考え、一歩踏み出して行動に移していくことが「人になる」一歩だと考えました。

また、他者を愛するということは、相手の立場に立って考え、相手を知ろうとすることだと考えました。そこで、他者を愛するという点について、カンファレンスの場面に置き換えて話し合いました。カンファレンスは、患者さんについてそれぞれが考えたこと、疑問に思ったことを共有し、解決策を見出していく場です。そのため、カンファレンスを通して、自分自身に新たな考え方や価値観が身についたり、患者さんについて今まで気がつくことができなかつた一面を発見することができます。したがって、患者さんの新たな情報を知り、それを受け止め、ケアにつなげていくことが、相手の立場にたって考えることや相手を知ろうとすることだと考えました。

このことから、「人になる」ということは、自己を愛すること、他者を愛することのどちらも必要であると思いました。

次に「奉仕せよ」とはどのような意味が込められているのかです。

「奉仕せよ」とは、ボランティア活動を含めて、見返りを求めずに行うこと、相手の立場に立って行動すること、無償の愛などの意見が出されました。

聖書の一説にこのような話があります。ある人がおいはぎに襲われて、道で倒れていたところに3人の人が通りかかりました。一人目は避けるように歩いていき、二人目はその人を見ると道の向こう側を歩いていきました。三人目は近寄り手当てをし、宿に連れて行って介抱をしました。私たちは、三人目はなぜそのような行動をとることが出来たのかを話し合いました。三人目は見返りを求めない無償の愛を持っていること、心に余裕があること、相手の立場に立って考えられることが挙げられました。特に相手の立場に立って考えるということは、他人を思いやることになり、隣人愛に繋がると考えまし

た。生活援助実習Ⅱの際、個別性に配慮した援助を考えるために患者さんと話をしました。この時の会話の中で、患者さんから「会話をしているだけであなたのためになるの？」と問いかけられました。実習中、私は『患者さんのために』と考えていたけれども、患者さんも『看護学生のために』と考えて下さっていたというに気がつきました。患者さんにとって、実習生が行うケアより、看護師が行ってくれるケアのほうが技術面や効率面を見ても安楽に提供してくれます。それにも関わらず、私たち実習生をなぜ受け入れて下さるのかということについて考えました。それは、今後看護師として働く私たちの成長を願ってくれているからではないかと考えました。すなわち「奉仕せよ」とは、互いに相手の立場で考え関わりを持って行くことではないかという結論に至りました。

私たち看護学生は、本学の「人になれ 奉仕せよ」という校訓をもとに、看護とはなにかを日々問いかけ、看護の知識を統合させた専門性の高い看護師になりたいと考えています。そして、患者さんの疾患だけにとらわれず、個別性に配慮したその人らしい生活が送れるように、共に考え、寄り添い、患者さんや家族が笑顔で日々を過ごしていけるように関わっていきたいです。

これで、第三グループの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。